

令和元年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「税金の在り方」

奈良県立郡山高等学校 二年 磯田 侑日子

「構成員の奉仕の精神にも頼るが、経済的援助もなしにはそれは無力である。」これは白衣の天使と称された、かの有名なフローレンス＝ナイチンゲールの言葉です。「構成員の自己犠牲のみに頼る援助活動は決して長続きしない。」ということを見抜いていた彼女のこの言葉は、現代社会でも当てはまることだと思います。しかし、「自己犠牲」や「奉仕の精神」という言葉では少しわかりにくい気がします。なので私はそういった言葉を「助け合い」や「ボランティア」と置き換え、そして税に絡めつつ、考えてみました。

そもそも税金がなかった場合、まず私達は公的サービスが受けられなくなります。病院の診察料の三割負担は全額負担になり、警察や救急車にお世話になる時にもお金が必要になります。更には義務教育を受ける際にも様々なお金が必要になるのです。そうなった時、資本主義である日本では貧富の差による違いが著しくなるでしょう。そして救えたはずの命、開花するはずだった才能…様々な未来の可能性が潰れていくのです。

そこでナイチンゲールの言葉に絡めて考えてみます。税金がないその代わりに「ボランティア」で国民全ての人に最低限度の生活を与えようとする人がいるとして、団体を作れたとしましょう。それはどれ程長続きするのでしょうか。または長続きしたとして、本当にその目的を達成し続けることができるのでしょうか。税金がないのですから、その人達だって自分自身の生活を守る必要があります。働いて守って与える。そんなことを続けられる人が数多くいるとは思えません。ナイチンゲールが言っていたのはそういうことです。経済的援助、現代でいうとこれの元になるものが税金だと私は考えていますが、これが無い生活はきっと苦しいものになるでしょう。だから、税金があるのです。国がやってくれなければ、私達国民が協力しなければ、私達は生活の安定を得られません。税金だからこそ意味があるのです。個人の方ではすべての国民は支えられないのです。

このように私達は税金のおかげで恵まれた環境での生活を送ってきました。正直税金についてはあまり意識したことがありませんでしたが、今回調べ、考えたことで税金の大切さを実感しました。そうやって守られて培った知識でこれから先の未来を構築し、支えて、また次世代へ繋いでいきたいと思えます。